

# 平成25年度

## 登録左官基幹技能者認定試験問題解答 (60分)

### 四国ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題 (四肢択一法)

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて11頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
  - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
  - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。  
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
  - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題 1 登録基幹技能者の役割に関して、最も不適当なものはどれか。



図 登録基幹技能者の役割

1. 施工方法等の提案・調整
2. 技能者の適切な配置、作業方法、手順等の構成
3. 施工に係る指示・指導
4. 前工程のみに配慮した連絡調整

問題2 登録基幹技能者講習の受講資格に関して、最も不適当なものはどれか。

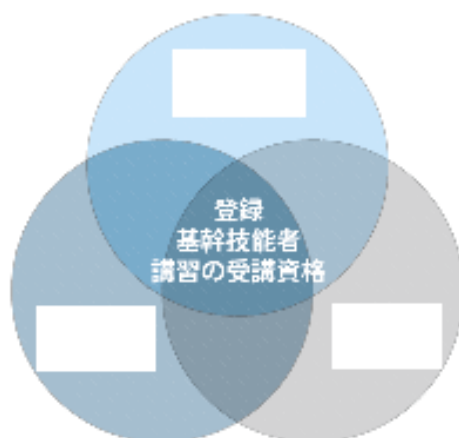


図 登録基幹技能者講習の受講資格

1. 足場の組立て等作業主任者
2. 10年以上の実務経験（該当する職種）
3. 職長経験年数、3年以上（実務経験のうち）
4. 実施機関において定めている資格等の保有（1級技能士、施工管理技士等）

問題3 技能労働者の職階に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 初級技能者は、補助者として作業する見習者も含め、上司の直接的指揮・指導の下、安全に作業できる者である。
2. 中級技能者は、業種に応じた資格を有し、自らの考えに基づき部下を指示し、自らも技能を発揮し、安全に直接的施工にあたることができる者である。
3. 上級技能者（職長クラス）は、業種に応じた資格を有し、優れた直接的施工能力を持ち、担当工事現場の責任者として工程・施工・安全等の管理と作業の指揮・指導を行う、基幹技能者になり得る資格を有する者である。
4. 登録基幹技能者は、熟達した作業能力と豊富な知識を持つとともに、現場をまとめ、効率的に作業を進めるためのマネジメント能力に優れた技能者で、国土交通大臣が登録した機関の資格認定を受けた上級職長である。

**問題4 公共工事における登録基幹技能者の評価・活用に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 近年、国や道府県の総合評価落札方式の入札工事において、登録基幹技能者の配置を加点の対象とするなど、登録基幹技能者が着実に評価・活用されつつある。
2. 登録基幹技能者等の公共工事での活用については、国においては平成17年度の北海道開発局、都道府県では平成19年度の長崎県が先陣を切って導入を始め、その後、平成23年度にはすべての地方整備局と5道府県が導入を図るなど、さらなる活用の動きが広がっている。
3. 国土交通省地方整備局等では、当該工事において入札公告時に登録基幹技能者の配置を評価項目として設定している。
4. 現在、公共工事における登録基幹技能者の評価・活用が行われている職種は、鉄筋職種と型枠職種の2職種である。

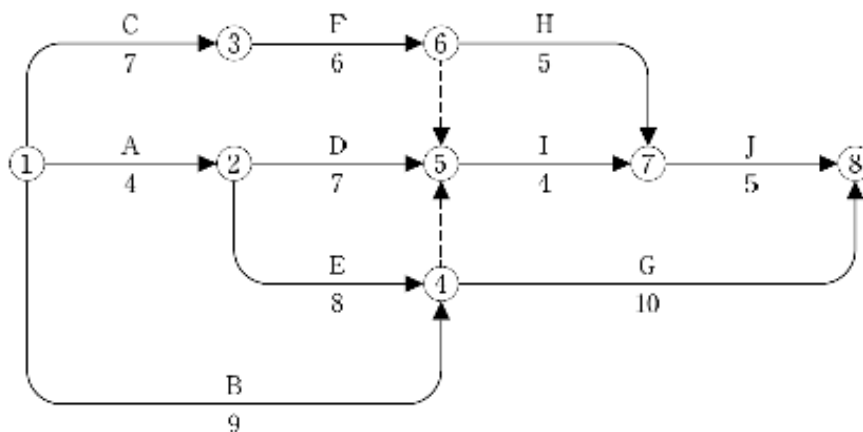
**問題5 元請企業団体における登録基幹技能者の評価・活用に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. (一社)日本建設業連合会(以下、「日建連」という)では、平成21年に発表した「建設技能者の人材確保・育成に関する提言」の施策の一つとして、優良職長手当制度を設けている。
2. 優良職長手当制度では、登録基幹技能者(職長)の中から日建連会員企業が特に優秀と認められた者を優良技能者と認定し、当該職長の標準目標年収が450万円以上となるよう努めることとしている。
3. 優良職長手当制度の名称は、元請企業により異なり、例えばA社では「優良技能者手当制度」、B社では「スーパー職長」、C社では「工事基幹技能者報奨制度」、D社では「コンストラクション・マイスター制度」等の様々な呼び名があり、また多くの企業が登録基幹技能者を支給要件として評価を行っている。
4. 優良職長手当制度において、登録基幹技能者を支給条件とする理由としては、日建連の提言との呼応や国や業界の本制度に対する取組に呼応したこと、他、「有資格者である事がある一定の能力を担保している目安となっている」ことや、「技能者自身が資格取得を目指す事による更なる能力の向上を目的」といったことが挙げられる。

問題6 登録基幹技能者が行うOJT等に関して、最も不適当なものはどれか。

1. OJTとは、職場の上司が部下の育成のために、日常の仕事を通して行う指導・教育のことである。
2. Off-JTとは、日常の仕事の中で行われる現場教育のことである。
3. OJTは、片手間にとか暇があるから教育を行なうという考え方でなく、仕事そのものであるという認識をもつことが大切である。
4. OJTは、上司の能力レベルから目標を定めるのではなく、部下の能力レベルに合わせた目標を立てて、そのペースを急ぎすぎずに行うことが大切である。

問題7 図に示すネットワーク工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. クリティカルパスは、C→F→H→Jである。
2. この工事現場の工期は、22日である。
3. 作業Iの最早終了時刻は、17日である。
4. 作業B及び作業Dがそれぞれ3日間遅延したとき、①から⑧までの総所要日数は23日である。

問題8 建設業法上違反となるおそれがある行為の事例に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 建設工事の請負契約の当事者である元請負人と下請負人は、対等な立場で契約すべきである。
2. 建設工事の請負契約の当事者である元請負人と下請負人は、14 の必要事項を書面に記載し、署名又は記名押印をして相互に交付しなければならない。
3. 契約書面の交付については、災害時等でやむを得ない場合を除き、原則として下請工事の着工後に行わなければならない。
4. 建設工事の請負契約の当事者に、契約の締結に際して契約内容を書面に記載し相互に交付すべきことを求めているのは、請負契約の明確性及び、正確性を担保し、紛争の発生を防止するためである。

問題9 建設工事標準下請契約約款において、建設工事下請契約書に記載する事項について、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 工事名
2. 工事場所
3. 下請人の主任技術者の氏名
4. 請負代金の支払の時期および方法

問題10 ブレインストーミング(BS)の手法を用いて行う場合に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. BS は、自由奔放に発想することから、画期的・独創的なアイデアが誕生することが多い。
2. BS のルールは、他人の意見を批判し、量を少なくし、偏った考えを主張することが最も重要とされている。
3. BS は、他人の意見やアイデアに自分の考え方を便乗させ、応用して組み合わせたり、便乗すること等を発展させて考えるとよい。
4. BS は、自由奔放に発想することが良いとされており、常識・経験・理屈は BS と無関係である。

**問題 1 1 塗り壁の故障の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 目地処理不足 — 付着不良 — 目地処理を充分行う。
2. 下地の吸水小 — はく離・ひび割れ — 吸水調整材を原液にする。
3. さび止めしない鉄部 — さび発生（せっこうプラスター） — さび止めを行う。
4. ドカ付け — ひび割れ — つけ送りをを行う。

**問題 1 2 セメントモルタル塗り厚に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. セメントモルタルつけ送り厚さが 25mm 以下でも、総塗り厚 35mm を超える場合は、はく落防止補強をする。
2. セメントモルタルの 1 回の塗り厚は、標準 10mm、最大 15mm で天井・ひさしは標準 4.5mm、最大 6mm とする。
3. 左官用軽量セメントモルタルの総塗り厚は、10mm 以下とする。
4. セメントモルタルの仕上げ厚は、天井・ひさしは 12mm 以下、その他は 25mm 以下とする。

**問題 1 3 住宅瑕疵担保責任保険・設計施工基準の外壁の防水に関して、最も不適当なもの**  
**はどれか。**

1. 通気構法の外壁に用いる防水紙は、JIS A 6111（透湿防水シート）に適合する透湿防水シートまたはこれと同等以上の透湿性能及び防水性能を有するものとする。
2. 防水紙の重ね合わせは、縦、横とも 90mm 以上とする。
3. 外壁開口部の周囲は、防水テープを用い防水紙を密着させることとする。
4. 直張りの防水紙は、JIS A 6005（アスファルトルーフィングフェルト）に適合するアスファルトフェルト 430 または透湿防水シートをとする。

**問題 1 4 ALC パネルの記載に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. ALC パネル下地は、工場でオートクレイブ（高温・高圧養生）した超軽量コンクリートパネルである。
2. ALC パネルの欠損部の補修には、反応硬化形で剛性・強度の大きな合成樹脂を用いる。
3. ALC パネルは、左官塗りの下地として、厚手の左官塗りを行ってはならない。
4. ALC パネルジョイント部は、パネル取付け構法に応じた所定の位置や、出入隅部、他部材との取合い部にも伸縮目地を設ける。

**問題 15** コンクリート表面の処理方法の組み合わせに関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. 専用シートによる凹凸処理は、コンクリート表面に凹凸を付与し、それがモルタルに食い込むことにより、はく離を防止する。
2. 高圧水洗浄は、必要な粗さを設定でき、作業者によるばらつきが多いが、施工管理が比較的容易、下階への水対策を検討する必要がある。
3. ブラシ掛け — 作業は簡易だが、施工の管理が曖昧となりやすく水洗いを併用する。
4. サンダー掛け — 施工のバラつきが出やすいので見本などを作製し管理する。

**問題 16** 左官工事に要求される品質管理に関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. 設計上要求される耐火、防水、遮音、吸音、断熱、湿温調節などの性能を備えていること。
2. 真壁についていえば、ちりがそろっていること等のように、仕上げ面が平坦であること。
3. 色調平滑度または粗面度等の仕上げ面の状態が、全壁面に関して一様であること。
4. 表面は、硬くなるように調合や工法を設定すること。

**問題 17** セメントモルタルの表面仕上げの記述に関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. タイル接着剤張り下地は、刷毛引き仕上げにする。
2. セメントモルタル張りタイル下地は、木鏝仕上げにする。
3. 壁紙張り下地および防水下地は、金鏝仕上げにする。
4. 吹付け下地する刷毛引き仕上げは、木鏝でならした後、金鏝で軽く押さえ、刷毛で刷毛目正しくまたは粗面に仕上げる。

**問題 18** JIS A 6909（建築用仕上塗材）の仕上塗材の種類および呼び名の記述に関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. 内装せつこう系厚付け仕上塗材 — 内装厚塗材G
2. 内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材L
3. 内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材W
4. 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 — 外装薄塗材C



**問題 19** 施工計画における基本方針について、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 全体工期、全体工費に及ぼす影響の大きい工種を優先して考える。
2. 現場の制約等を考慮して資機材、労働力などの円滑な回転を図る。
3. 工程短縮を考え、業種によっては、可能な限り集中的に工事を進めることも検討する。
4. 繰り返し作業により習熟を図り、効率を高める。

**問題 20** 資機材管理計画における揚重計画について、**最も不適当なもの**はどれか。

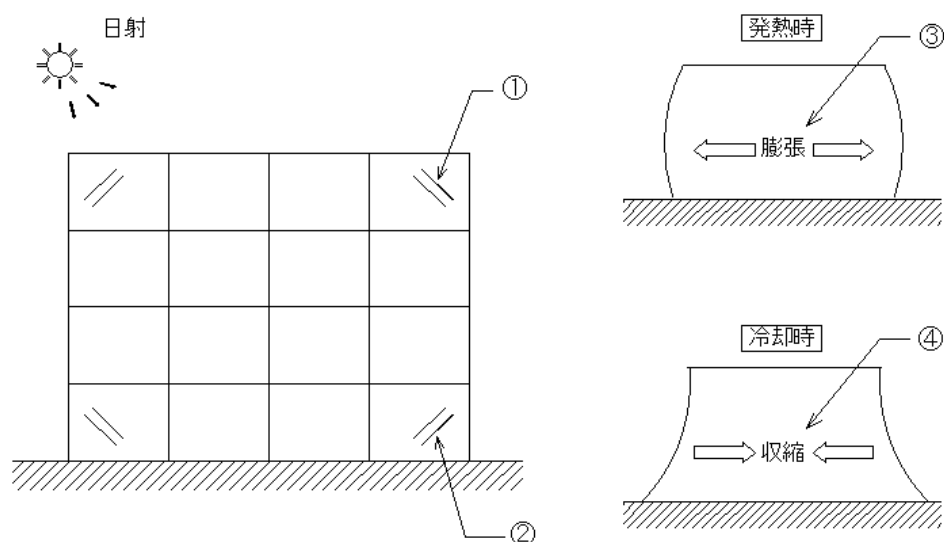
1. まずは、荷姿、梱包方法を決定し、現場の揚重機器に対応できるかどうかを確認する。
2. 梱包材の搬出も考えて計画する。
3. 元請および他業者と揚重の週間工程表を作成し、毎日の打ち合わせの中で再確認する。
4. 資材の保管場所は元請等と十分打ち合わせて決定する。

**問題 21** 原価管理の要点について、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 原価比率の高いものに重点を置いてコスト縮減を図る。
2. 物価の動静にとらわれず、個々の工種を最適な時期に発注するよう心掛ける。
3. 次期契約の参考にするために、稼働している工種の単価を把握する。
4. 大量にある資機材の場合は、海外からの安価な輸入品などにも目を向ける。

問題 2 2 下図のような鉄筋コンクリート造の建物に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建物の最上階は、日射を受けて伸びようとするので、①のように「ハの字型」にクラックが発生しやすい。
2. 基礎・地中梁は、乾燥収縮により縮もうとするので、②のように「逆ハの字型」にクラックが発生しやすい。
3. コンクリートが硬化する際は、水和熱が発生し、③のように熱膨張する。
4. 膨張して固まったコンクリートが冷却する際は、④のように収縮する。



**問題 2 3 わが国の建設業における労働災害の現状に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。**

1. 労働災害発生件数の死傷者数は、平成 2 3 年度は 5 0 年前の 1 7 % に減少している。
2. 労働災害減少の要因として、労働安全衛生法等の安全関係法規の整備が挙げられる。
3. 建設工事全体の事故の型別では、墜落事故が 4 5 % で最も多い。
4. 建設業は、他産業と比べ労働災害発生件数は多いが、従事している人が多いため、発生率で比較するとほぼ同じである。

**問題 2 4 作業主任者の配置が必要な作業を列記しているが、最も不適当なものはどれか。**

1. 型枠支保工の組立または解体の作業
2. ガス圧接作業
3. 高さ 2 m のコンクリート造の工作物の解体作業
4. 特定化学物質を取り扱う作業

**問題 2 5 労働災害防止対策に関する記述のうち、最も不適当なものはどれか。**

1. 高さが 2 m のところで足場の組立と解体を行うためには、作業床を設置しなければいけない。
2. 高さが 2 m 以上の開口部には、手すりが必要である。
3. 脚立の正しい使い方は、天板に乗って作業することである。
4. はしごの正しい使い方は、しっかりと固定し、はしごの上端を床から 6 0 cm 以上突出させ、はしごの上での作業は原則行わないことである。